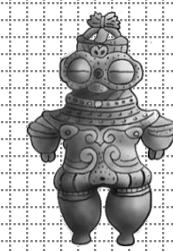


けんぱくものしりシート

じょう もん じん

せい かつ

縄文人の生活



ケンくん

ねえねえ。縄文人が暮らしていた場所が世界遺産(※)になったんだよね。



ハクちゃん

そうそう。縄文時代の生活は、どんなだったのかな？

かいけついん
解説員

ケンくん、ハクちゃん。縄文時代
なか おも う もの
の中で思い浮かぶ物はあるかしら？



じょうもん ど き
縄文土器でしょ、竪穴住
きよ かいづか ど ぐう
居。あとは貝塚と土偶。(☆)



さすがですね。そのほかに弓や石斧、丸木舟もあった
おおむかし げん し てき せいかつ そうぞう
ようです。大昔なので原始的な生活を想像してしまい
ますが、そんなことはなさそうです。道具を作る技術
たか ど き どう ぐ つく ぎ じゅつ
は高く、土器などのデザインもすばらしいですよね。
どんな暮らしをしていたのか見てみましょう。



じょうもん じ だい
縄文時代はい
はじ
つごろから始ま
ったのかな？

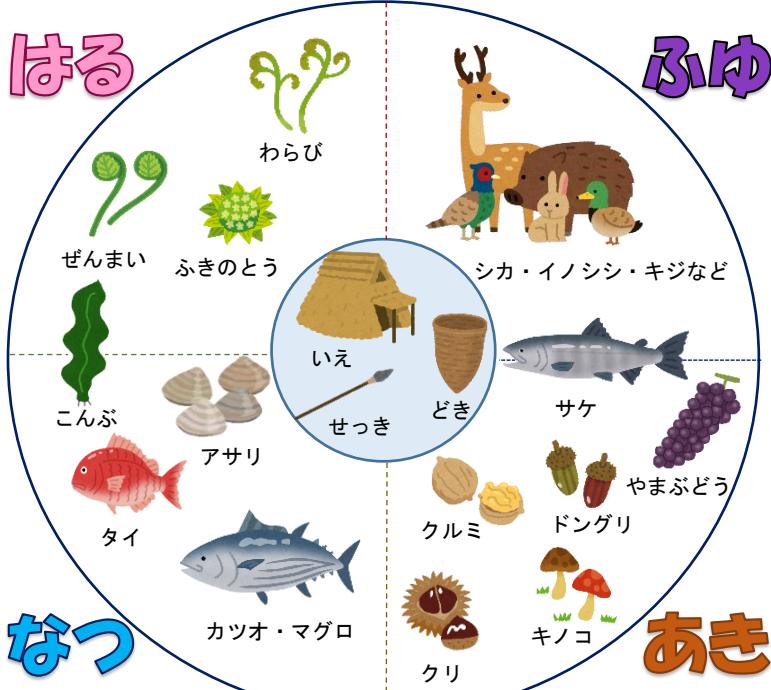


やく まん せんねんまえ ひょう が き お あたた
約1万2千年前に氷河期が終わり暖かくなってきたころからです。

きゅうせっき 旧 石器 じ だい 時 代	じょうもんじだい						やよい 弥 生 じ だい 時 代
	そそう き 草創期	そ き 早期	ぜん き 前期	ちゅう き 中期	こう き 後期	ばん き 晚期	
12,000	8,000	6,000	5,000	4,000	3,000	2,300	ねんまえ 年前

これまで大型動物を追いかけて狩りをしながら移動する生活をしていた人た
ちが、竪穴住居を建てて同じ所で生活するようになりました。土器の発明が
大きなきっかけの1つです。土器で煮たきをすることで、これまで生では食べ
られなかったドングリなどの植物が食べられるようになりました。これで食生活が安定したのです。「狩り・漁・採集」によ
って暮らしていた縄文時代は、約1万年も続いた争いの少ない時代だったよ
うです。

【縄文人の1年】



縄文人は季節ごとに手に入るものでした。春には芽が出た山菜を集め、夏は魚、貝、海藻をとります。秋は森で木の実を拾い、冬には山で動物の狩りです。狩りには大事な仲間である犬も連れて行きました。恵みをあたえてくれる自然を大切に守り、毎年採集できるよう、その時期に必要な分だけをとっていたのでしょう。また栗の木などを植えて手入れをし、安定した食料の確保も計画していたと考えられます。

【縄文人の1日】

朝は日の出とともに起きて朝食をとると、男性は狩りや漁へ、女性や子どもは植物採集などに出かけました。1日中外へ出かけていたわけではなく、残りの時間は、土器・石器などの道具作りや、とってきた食材で保存食を作ったりしていました。日が暮れたら家の中で火を囲んで一家だんらんの時間もあったことでしょう。そして、身体を休めるように眠りについたと思われます。

(※) 「北海道・北東北の縄文遺跡群」2021(令和3)年7月27日登録

参考文献 (1) 岩手県立博物館 1993年『じょうもん発信』(2) 結城凜他 2018年『いま蘇る縄文』

さて、今日はここまでです。(☆)印は「ものしりシート」のバッケンバーでくわしく見ることができます。

まずは「ものしりシート」を見てみようかな。

- 「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。
- 「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214

岩手県立博物館

検索

HPにてバッケンバー公開中!

けんぱくものしりシート

『縄文人の生活』

2023年8月発行 考古—No.27

■参考文献

- ・岩手県立博物館 1993年 『じょうもん発信』
- ・発行人 結城 凜 2018年 『いま蘇る縄文』
- 編集人 山本一馬
- 株式会社ダイアプレス